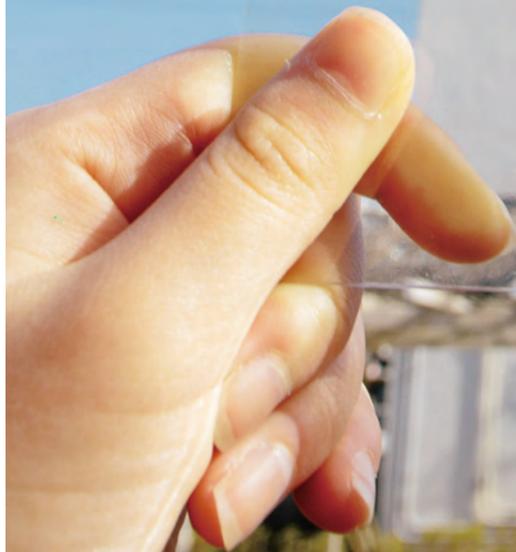


団地 × アート

都内有数の大規模団地など、大小あわせて12の団地が林立する町田市。その大半は1960年代後半に開発され、当初は先進的な住まいとして市への人口流入に大きく貢献した。

あれから半世紀——。2020年9月現在、そこに暮らすのは市内全体の10%にあたる1万9922世帯で、少子高齢化の波により住民の減少が続く。こうした課題解決に向け、一昨年にアートの力を活用した取り組みが始まった。



知ってほしい、団地の魅力…



アートの力を活かして人集め

「団地でアートのワークショップをやってみませんか？」

2017年の暮れ、町田市在住で児童書の装画や挿絵を中心に活躍中のイラストレーター・本田亮さん(37)のもとに、市からそんな依頼が舞い込んだ。

開発が盛んだった約50年前には、人口流入の中心的役割を果たしていた団地。だが、少子高齢化の影響により、近年は空き家も目立つようになってきた。とはいえ、ゆとりある敷地には緑が多く、商店や公園もそろ

うなど、ひとつの街として形成された優れた住環境であることに変わりはない。昭和レトロな内装デザインは古さゆえの味わいがあり、そんな特徴を活かしたりノベーションも若い世代を中心に密かな人気を集める。

団地には、再び活気を取り戻すポテンシャルがあるはず。その再生に向けた第一歩として、ターゲットとする子育て世代に関心を抱いてもらうため、アートの力を借りたイベントを開催しようとして本田さんに白羽の矢が立ったというわけだ。

「大勢を巻き込んでやった方



イベントの中心的役割を担ったイラストレーターの本田さん

が注目され、にぎわうはず。本田さんは自身の個展を通じて知り合った町田パリオの長田菜月さん(41)に協力を仰いだ。長田さんはアートで街の魅力を発信する『パリコレッ!芸術祭』などを運営する「まちだはまちだプロジェクト」のリーダーで、これに市やJKK東京(東京都住宅供給公社)の職員も加わって企画を練り、18年3月に町田木曾住宅を会場としたイベントの開催にこぎつけた。

その名は「遊団地」。団地は「ケーキである」。イチゴやロウソクを描いた透明の下敷きを白い団地に重ねて「ケーキ」を完成させるワークショップなど、楽しみながら団地を回遊する企画は2572人の参加者を集めた。

翌年は第2弾として、スゴロク形式で団地を巡り、各所でアートのワークショップや地域の人との交流を楽しむイベントを開催。前年を上回る2704人が訪れるなど好評を博した。

「日常を非日常に変えられる。それもアートの力」と話す本田さん。一方、多くのアートイベントの企画に携わってきた経験から、「アートはそこに集う人をつなげる」と語る長田さん。二人の言葉どおり、普段は閑静な団地に多くの人が訪れ、大いににぎわった2日間だった。広々とした住環境やほのぼのと



遊団地第2弾はスゴロクで団地を巡った

したコミュニティなど、「まずは身近にある団地の魅力を体感してもらおう」という目的は少なからず達成できたはずだ。今年3月に予定されていた第3弾は、新型コロナウイルスの影響で中止。だが、現在は団地の風景を絵柄にしたカルタを制作する企画を検討中という。



町田の「今」と「昔」の風景を織り交ぜた本田さんのイラスト作品